反射テスト 平面図形 証明 2円 04 難

- 1. 小円が大円に点 T で内接していて, 大円周上に点 A,B をとると, 線分 AB が小円と点 E で接した. TA,TB と小円との交点を それぞれ C,D とするとき, 次の間に答えよ. (S 級 6 分, A 級 10 分, B 級 20 分, C 級 30 分)
 - (1) AB // CD を証明せよ.
 - (2) TE が ∠ATB を二等分することを証明せよ.
 - (3) TA = 15, TB = 12, AB = 9 のとき, 小円と大円の面積比を求めよ.

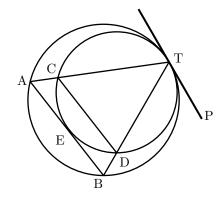
2. 2 つの円が点 T で外接していて, 大円周上に点 A,B がある. 直線 AT と小円の交点のうち T ではない方を C, 直線 BT と小円の交点のうち T ではない方を D とすると, 直線 CD が大円に接し, その接点を E とした. 次の間に答えよ.

(S級 10分, A級 20分, B級 40分, C級 1時間)

- (1) AB // DC を証明せよ.
- (2) TE が ∠CTB を二等分することを証明せよ.
- (3) TA = 6, TB = 15, $CD = 3\sqrt{10}$ のとき, 小円と大円の面積比を求めよ.

反射テスト 平面図形 証明 2円 04 難 解答解説

- - (1) AB // CD を証明せよ.
 - (2) TE が ∠ATB を二等分することを証明せよ.
 - (3) TA = 15, TB = 12, AB = 9 のとき, 小円と大円の面積比を求めよ.



(1)

★ 接線の補助線

Tでの接線を描き、図のように接線上に点 Pを定める.

同位角が等しいから, AB // CD

(2)

∠ETA = ∠ETC (共通.)

= ∠EDC (小円CEの円周角は等しい.)

= ∠BED (AB // CD より錯角は等しい.)

= ∠ETD (小円に接弦定理を適用.)

= ∠ETB (共通.)

以上から、TE は ZATB の二等分線である.

(3)

(2) から, ★ 内角の二等分線と線分比の関係 より, EA: EB = TA: TB = 15: 12 = 5: 4

よって
$$AE = \frac{5}{5+4}AB = \frac{5}{9} \times 9 = 5$$

小円に方べきの定理を適用し,

$$AC \times AT = AE^2$$

$$\Rightarrow$$
 AC \times 15 = 5²

$$\Leftrightarrow$$
 AC = $\frac{5}{3}$

また、 \triangle TCD \bigcirc \triangle TAB であり、その相似比は、

$$TC: TA = \left(15 - \frac{5}{3}\right): 15 = 8:9$$

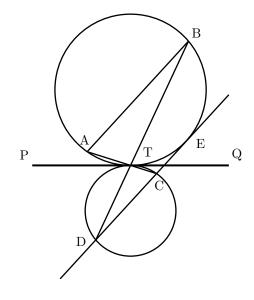
小円, 大円はそれぞれ \triangle TCD, \triangle TAB の外接円.

小円と大円の相似比も 8:9 であるから、面積比は $8^2:9^2=64:81$

2. 2 つの円が点 T で外接していて, 大円周上に点 A,B がある. 直線 AT と小円の交点のうち T ではない方を C, 直線 BT と小円の交点のうち T ではない方を D とすると, 直線 CD が大円に接し, その接点を E とした. 次の間に答えよ.

(S 級 10 分, A 級 20 分, B 級 40 分, C 級 1 時間)

- (1) AB // DC を証明せよ.
- (2) TE が ∠CTB を二等分することを証明せよ.
- (3) TA = 6, TB = 15, $CD = 3\sqrt{10}$ のとき, 小円と大円の面積比を求めよ.



★ 接線の補助線

Tでの接線を描き、図のように接線上に点 P,Q を定める.

(1)

∠TAB = ∠BTQ (大円に接弦定理を適用.)

= ∠DTP (対頂角は等しい.)

= ∠TCD (小円に接弦定理を適用.)

錯角が等しいから, AB // CD

(2)

∠ETB = ∠EAB (大円BEの円周角は等しい.)

= ∠AEC (AB // CD より錯角は等しい.)

= ∠ABE (大円に接弦定理を適用.)

= ∠ETC (大円に内接する四角形 ATEB の対角の外角.)

以上から、TE は ∠CTB の二等分線である.

(3) AB // DC から, △TAB ∽ △TCD

よって、TD : TC = TB : TA = 15 : 6 = 5 : 2

(2) から, ★ 外角の二等分線と線分比の関係 より, ED: EC = TD: TC = 5:2

よって ED: CD = 5:(5-2)=5:3⇒ ED = $\frac{5}{3}$ CD = $5\sqrt{10}$.

DT = x とおいて、大円に方べきの定理を適用すると、

 $DT \times DB = DE^{2}$ $\Rightarrow x \times (x+15) = (5\sqrt{10})^{2}$

TD : TB = 10 : 15 = 2 : 3

小円, 大円はそれぞれ \triangle TCD, \triangle TAB の外接円.

小円と大円の相似比も 2:3 であるから, 面積比は $2^2:3^2=4:9$

☆ 対称性

前ページの2円が内接する場合と、このページの2円が外接する場合の**対称性**に注目. 内接と外接には本質的な違いがないことに気づいて欲しい.